

APU国内学生後援会 2025年度 定例懇談会 大学代表挨拶

立命館アジア太平洋大学
社会連携部長 奥山 亮

1. APUの近況



2025年春の「入学式」を開催。



2025年4月1日にAPUの入学式を開催。58カ国・地域からの留学生313人を含む1082人が新たなスタートを切った。米山裕学長は「志を同じくする世界中の仲間と一緒に未来を切り開いてほしい」とあいさつ。糸川明日花さん（18）が「誇りと笑顔を持ってこの場所から飛び立ち、世界をよりよく変えたい」、台湾出身のツイ・チーユンさん（27）が「グローバルリーダー、政策立案者、変革者へと成長できるようお互いを支え合おう」と決意を述べた。

海外からの新入生はミャンマー出身者が最も多く、80人。在籍学生の出身は112カ国・地域となり、このうちミャンマー出身の学生が474人で日本以外ではトップとなった。式後は、在校生が学生団体のパフォーマンス、学生生活を紹介する企画などで歓迎しました。





10年で世界に誇るグローバル・ラーニング・コミュニティの確立 文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」で 最高評価「S」を獲得

文部科学省が推進するスーパーグローバル大学創成支援事業(以下、SGU)の令和6年度事後評価結果において、最高評価である「S」を獲得しました。APUが掲げた「Global Learning：大学教育の新しい地平を目指す」という構想が、事業目的を十分に達成し、今後も持続的な発展が確実に期待できると評価されました。この度の評価は、本事業が10年の採択期間を満了し、2023年度で終了したことを受けて、文部科学省が各採択大学の取り組みに対する事後評価をしたものです。APUが開学以来維持してきた「3つの50」に加え、今回の事業を契機に新たに設定した「4つの100」を掲げ、その圧倒的なグローバル環境の実現に向けて全学をあげて取り組み、目標を概ね達成し成果を上げたことが高く評価され「S」評価を受けました。

● APUが開学以来維持してきた「3つの50」

- 留学生比率：50%
- 外国籍教員比率：50%、
- 留学生の出身：50カ国・地域

● 新たな「4つの100」達成状況

- 初年次学生教育寮体験：100%（2023年）
- 多文化協働学修実施授業率：97.6%（2022年）
- 在学中海外経験：73.7%（2022年）
- 留学生出身国・地域：106カ国・地域（2022年度）

● その他評価のポイント

- キャンパスの多国籍・多文化環境の構築 多国籍・多文化環境のキャンパスづくりを進め、学生が主体的に多様な視点を学び合い、協働する「多文化協働学修」を実現しました。
- 教職員の国際化とガバナンス改革 国際的な教育研究の質向上を目指し、ビジネススクールの国際認証AACSB・AMBA認証を取得することでMBAプログラムの世界水準化を達成。さらに、教職員の国際化やガバナンス改革を推進し、多様なステークホルダーの声を反映する意思決定機関を整備しました

「THE日本大学ランキング2025発表」 全国私大で4位、7年連続 西日本私大1位にランクイン

「THE 日本大学ランキング」は、英国の教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）とベネッセグループが大学の教学改革やグローバル化の推進を目的に公表するランキングです。ランキング指標となる「教育リソース」「教育充実度」「教育成果」「国際性」の4分野によって大学の「教育力」を測定し、今回は257大学がランキング対象となりました。

英国の高等教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）による「日本大学ランキング 2025」が、4月3日（木）17時に発表され、対象となった257大学のうち立命館アジア太平洋大学は、前回（2023年3月発表）に引き続き**全国の私立大学で第4位**、さらに**7年連続で西日本の私立大学において第1位**の評価となりました。総合順位は、前回と同じく**第22位**となりました。4分野から構成される分野別のランキングでは、「国際性」で**全国第2位**、「教育充実度」では**4年連続で全国第3位**となりました。「国際性」は外国人学生比率、外国人教員比率、外国語で行われている講座の比率など、国際的な環境が評価されます。「教育充実度」は、大学生・大学院生への調査（教員・学生の交流、授業・指導の充実度、大学の推奨度など）による満足度が反映されます。また、高校教員を対象とした評判調査結果（グローバル人材育成の重視、入学後の能力伸長）から、どれだけ教育への期待が実現されているかを表しています。APUでは、2000年の開学以来、日本人学生と留学生の比率50%を目指し、現在では112カ国・地域から学生が集う国際性豊かな学びの環境を維持しています。その環境を活かして、授業では、ディスカッションやグループワーク、フィールドワーク、企業連携プロジェクト、海外研修など、実践的かつ参加型の学びを重視してきました。こうした継続的な取り組みが、今回の高い評価につながったものと考えています

総合順位 全国私立大学トップ10

- 1 国際基督教大学
- 2 慶応義塾大学
- 3 早稲田大学
- 4 **立命館アジア太平洋大学**
- 5 上智大学
- 6 立命館大学
- 7 芝浦工業大学
- 8 神田外国語大学
- 9 東京理科大学
- 10 立教大学

「教育充実度」が高い大学 トップ5

- 1 国際基督教大学
- 2 国際教養大学
- 3 **立命館アジア太平洋大学**
- 4 東京工業大学
- 5 一橋大学

「国際性」が高い大学 トップ5

- 1 国際教養大学
- 2 **立命館アジア太平洋大学**
- 3 国際基督教大学
- 4 大阪女学院大学
- 5 関西外国語大学



未来の教育を拓く新制

2025年度『特命副学長募集中！！』

特命副学長募集

FUTURE VISIONARY VICE PRESIDENT RECRUITMENT

ないものつくればいい。

大学はもっとおもしろくなる。

正解のない世界を生きていく。常識なんてすぐ変わる社会。
だから、これから歩む道は自分でつくってみたい。

足りないものは生み出そう。目指す場所をつくり出そう。
世界を変え、世界を巻き込む舞台が、ここにある。

大学を、私たちのために、もっとおもしろい場所にしよう。



24年度 特命副学長

在校生

高校生 特命副学長

役割/活動

- 地域と文化を越えた同世代の間々と共に、これからの新しい大学像、教育の未来像につながるような政策・企画の立案
- 必要に応じた外部機関（教育機関、企業、市町村自治体）へのヒアリングや連携
- 活動に関する情報発信と、学内外の各種イベントへの参加、発表、取材対応
- 在校生特命副学長との連携
- 普段の活動は学業に影響でない範囲で、通常の活動は平日や週末、長期休暇期間を活用し、外部組織や大学と月に一回程度の打ち合わせの可能性があります。

高校生 サミットメンバー

役割/活動

- 高校生副学長とともに、これからの新しい大学像、教育の未来像につながるような政策・企画の立案
- 必要に応じた外部機関（教育機関、企業、市町村自治体）へのヒアリングや連携
- 活動に関する情報発信と、学内外の各種イベントへの参加、発表、取材対応
- 普段の活動は学業に影響でない範囲で、通常の活動は平日や週末、長期休暇期間を活用し、外部組織や大学と月に一回程度の打ち合わせの可能性があります。

高校生

在校生 特命副学長

役割/活動

- APUのあるべき姿を考え、それにつながる新たな政策、企画の立案
- 必要に応じた外部機関（教育機関、企業、市町村自治体）へのヒアリングや連携
- 大学評議会（大学の最高意思決定機関）への提言
- 活動に関する情報発信と、学内外の各種イベントへの参加、発表、取材対応
- 高校生特命副学長との連携

在校生 サミットメンバー

役割/活動

- 在校生副学長とともに、APUのあるべき姿を考え、それにつながる新たな政策、企画の立案
- 必要に応じた外部機関（教育機関、企業、市町村自治体）との連携
- 在校生副学長と連携し、大学評議会への定期的な出席
- 学内外の各種イベントへの参加、発表、取材対応



24年度 特命副学長と支えるサミットメンバー

2024年度はAPUとして3つの企業、団体と連携協定を締結しました。

(株) コンベンションリンケージと MICE産業の発展に向けた包括連携 協定を締結

2023年4月にサステナビリティ観光学部を開設し、持続可能な社会と観光に関する基礎的・専門的知識及び高い実務能力を有する人材育成を目指すAPUと日本におけるコンベンション施設民間運営のパイオニアであり、国際会議をはじめMICEの運営に幅広い実績を持つ株式会社コンベンションリンケージが、互いの人的・知的資源を活用し、相互協力してこれからのMICE産業を支える人材育成に向けて取り組みます。

CONVENTION
LINKAGE

高度観光人材を育成し、観光立国日本を元気に！ ジャパンエンターテイメントと産学連携

ジャパンエンターテイメントとAPUが有する教育・実践・調査研究における人的・物的資源を有効に活用した連携により、地域の価値を消費者の価値に昇華できる高度な観光人材を育成・輩出できるよう、共に取り組みます。JUNGLIAで学び、実践を積んだ人材が、日本の様々な観光地で活躍することで、観光立国・日本の発展に貢献していきます。



(株) トキハと包括連携協定締結

大分・別府地域の価値創造と、地域課題を解決に導く人材育成を目指していきます。多様な学生の視点を生かした地域特産品の開発による地域の魅力の発掘、インバウンド増加に伴う顧客ニーズの多様化に応えるための実践、また百貨店の空間を利用した地域の人的交流や、将来的には百貨店の特徴を活用し、販売、接客、商品管理、マーケティング、イベント企画など幅広い業務領域での共創を進めます。





後援会学生生活支援事業『100円朝食』

【2025年4～5月の実績】

- 利用数 6,831人 ※2024年度1年間の実績35,417名
(国内学生：4,396名・国際学生2,435名)
- 補助額
朝食 421円 ⇒ 100円で提供 (321円の補助)





APUの近況

「Leap Beyond Global」
ライフロング・ラーナー

APUではロングライフ・ラーナーが集うコミュニティを形成し、人生のあらゆる段階で学び続ける意欲的な人々が共創しあう場を提供していきます。立命館東京キャンパスを会場にて、後援会の皆様を主な対象として、出口治明APU学長特命補佐監修セミナーシリーズ『「出口」治明の学びの「入口」』を開講しました。

Shape your world
APU
Ritsumeikan
Asia Pacific University

立命館アジア太平洋大学 在学生父母等対象
出口学長特命補佐監修 大人の教養講座
『出口』治明の学びの『入口』@東京
第1回セミナー

■開会挨拶： 出口 治明 APU学長特命補佐
■第1回講師： 米山 裕 APU学長

「移民をめぐる国際情勢2025」

2010年代から、欧米各国で移民や難民をめぐる政治的対立が激しくなった。2016年に国民投票を実施したイギリスのEU離脱（Brexit）では、EU域内移民労働者の扱いが大きなトピックとなった。2024年のアメリカ大統領選挙では、いわゆる「不法移民」を強制送還すると約束したトランプに大きな支持が集まった。スウェーデンやフランスでも、反移民、難民、反イスラムを掲げる右翼政党が勢力を大きく拡大している。こういった状況は、単に国内における対立が高まったり、移民、難民といった少数者に対する差別が強まったりするだけではない。欧米で深く定着したと考えられてきた民主主義の考えや体制が、意外に脆弱であることを示すものだと考えられるようになり、世界的な課題として認識されつつある。このような状況を概観しつつ、日本の議論にも言及し、APUが果たしうる役割についても考えたい。

■言語：日本語
■参加費：無料
■日時：2025年1月25日（土）10：00～11：30

【対面参加のみ】セミナー終了後、懇親会を開催します（11:40 - 12:30）
■会場：立命館東京キャンパス / Zoomによるオンライン配信も併用
（東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー8階）
■定員：対面60名 / オンライン300名（先着順）
第1回に対面参加された方には出口学長特命補佐の著書を進呈！
■お申し込みはこちら：
<https://forms.gle/XwpNMY99Qw6ozTNZA>
申込締切：1月20日（月）

※第2回は2月15日（土）開催予定です

みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

■お問合せ：立命館アジア太平洋大学（APU）東京オフィス
E-mail: aputkpr1@apu.ac.jp
TEL: 03-5962-9799（月～金曜日：9:00～17:30）

主催 立命館アジア太平洋大学 東京オフィス 協力 APU国内学生後援会

Shape your world
APU
Ritsumeikan
Asia Pacific University

立命館アジア太平洋大学 在学生父母等対象
出口学長特命補佐監修 大人の教養講座
『出口』治明の学びの『入口』@東京
第2回セミナー

■第2回講師： 大山 高 筑波大学教授（APU第1期生・2004年卒）
『マルチスポーツを科学する』著者

「ウェルビーイング」をめぐる世界的トレンドとマルチスポーツ研究の真相について
～APUでしか学べない「常識を疑う力」から新学問領域の発見に至るまで～

現在、少子化対策や教職員の働き方改革の一環として「部活動地域移行」がスポーツ庁から提唱されています。これは、日本の旧態依然としたスポーツ文化や政策の限界に対処するためです。過去には「総合型地域スポーツクラブ構想」が掲げられましたが、政策的には実現せず、スポーツ界におけるグローバル人材育成が後回しにされてきました。その結果、日本のスポーツ教育は抜本的な変革を遂げられませんでした。

しかし、近年ではAPUの卒業生たちがスポーツビジネス界でグローバルに活躍しています。これは単なる偶然ではなく、APUでしか習得できない高度な思考力が国際スポーツ社会で発揮されているためです。本講演では、他の大学生と比較してAPU在学中に得られる特別な経験や知識についても紹介します。また、APUが国際社会においてスポーツ教育とどのように関わらなければならないかについても考えます。

■言語：日本語
■参加費：無料
■日時：2025年2月15日（土）10：00～11：30

【対面参加のみ】セミナー終了後、懇親会を開催します（11:40 - 12:30）
■会場：立命館東京キャンパス / Zoomによるオンライン配信も併用
（東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー8階）
■定員：対面60名 / オンライン300名（先着順）

■お申し込みはこちら：
<https://forms.gle/FUUXpLtaWFOqnnDas8>
申込締切：2月10日（月）

※第3回は3月15日（土）開催予定です

みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

■お問合せ：立命館アジア太平洋大学（APU）東京オフィス
E-mail: aputkpr1@apu.ac.jp
TEL: 03-5962-9799（月～金曜日：9:00～17:30）

主催 立命館アジア太平洋大学 東京オフィス 協力 APU国内学生後援会

Shape your world
APU
Ritsumeikan
Asia Pacific University

立命館アジア太平洋大学 在学生父母等対象
出口学長特命補佐監修 大人の教養講座
『出口』治明の学びの『入口』@東京
第3回セミナー

■開会挨拶： 出口 治明 APU学長特命補佐
■第3回講師： 財前 直見 サステイナビリティ観光学部客員教授 / 俳優
「持続可能な暮らしで、愛情をそそぎ育てていく」

東京で俳優として活躍しながら、大分で子育てし、自然と寄り添い豊かな暮らしを実現してきた財前直見さん。その愛情深い生活の知恵や、親から子へ、そして次の世代へと受け継がれる思いをお話しいたします。

このセミナーでは、忙しい日々の中でも子供との絆を深めてきたコミュニケーションの秘訣や、財前さんが大切にしている「本当の豊かさ」とは何かを探ります。ファシリテーターと共に対話形式で進行し、参加者の皆さんと一緒に心が満たされる生き方について考えていきます。

■言語：日本語
■参加費：無料
■日時：2025年3月15日（土）10：00～11：30

【対面参加のみ】セミナー終了後、懇親会を開催します（11:40 - 12:30）
■会場：立命館東京キャンパス / Zoomによるオンライン配信も併用
（東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー8階）
■定員：対面60名 / オンライン300名（先着順）

■お申し込みはこちら：
<https://forms.gle/JxY6ySLPD7yYs6P76>
申込締切：3月10日（月）

みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

■お問合せ：立命館アジア太平洋大学（APU）東京オフィス
E-mail: aputkpr1@apu.ac.jp
TEL: 03-5962-9799（月～金曜日：9:00～17:30）

主催 立命館アジア太平洋大学 東京オフィス 協力 APU国内学生後援会

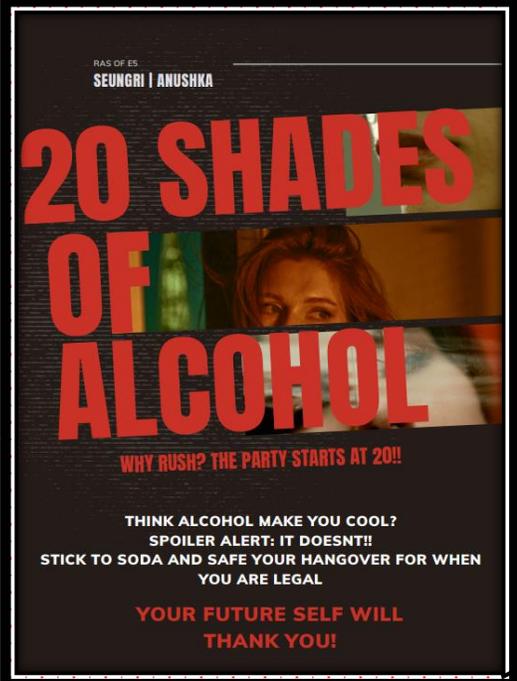


APUの近況

後援会 啓発事業

アルコール体質と未成年飲酒に関する講座

【2024年4~9月】
三和酒類株式会社「三和研究所」串尾聡之研究員様の協力により、APハウスのRAを対象にアルコールによる体質の変化のメカニズムを学び、実際に検査キットを使用し、自分がどのタイプなのか？そのタイプの特徴や影響を理解し、お酒との付き合い方、他未成年への飲酒に関し、法や倫理の観点から学び、APハウスに未成年の飲酒防止の啓発ポスターを作成しました。



最優秀ポスター





APUの近況

後援会啓発事業「違法薬物乱用防止」動画作成

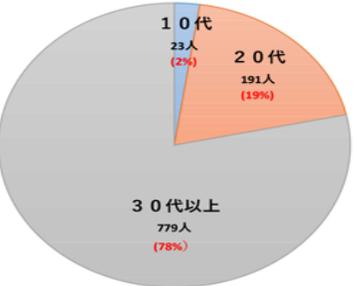
作成した動画は
こちらのQR
コードからご覧
になれます。



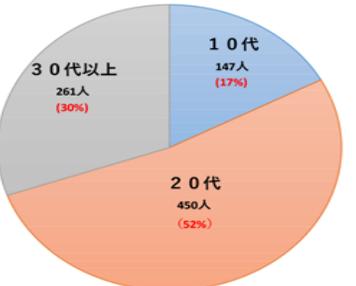
若者への大麻の広がり

下記のグラフは、令和5年の覚醒剤・大麻検挙人員の年齢内訳です。

R5覚醒剤検挙人員（年齢内訳）



R5大麻検挙人員（年齢内訳）



大麻事犯では10代・20代の若年層の割合が多いことがわかります。
若者への大麻の広がりが、大麻事犯の増加に繋がっていると言えます。



後援会啓発事業「熱中症対策アンバサダー™講座」開催

異常気象の夏、学生自ら“命を守る知識”を広げる産学連携
APU × 大塚製薬「熱中症対策アンバサダー®講座」を初開催
～啓発と実践を通じて、未来のアンバサダーを育成～
2025年6月25日（水）第1部 12:30～14:10 第2部 14:20～16:00

異常気象が常態化する中、学生における様々な活動中の熱中症リスクの高まりが懸念されています。APU国内学生後援会の「学生支援事業」の一環として、在学生を対象に熱中症に対する正しい知識と行動を広めることを目的に、大塚製薬株式会社との連携により「熱中症対策アンバサダー講座」を開催いたします。本講座では、熱中症の基礎知識や発症時の適切な対応などについて、大塚製薬の専門スタッフが学生向けに分かりやすく解説。学生自身が正しい知識を持ち、仲間や周囲へ熱中症対策の重要性を伝える“熱中症対策アンバサダー”としての役割を担えるよう育成することを目指します。APUで開催される当講座では、日本語・英語の2部構成で実施され、英語回では多国籍な学生が参加する中で、啓発ポスターの共同制作ワークショップも行います。学生の主体性を引き出すと同時に、キャンパス全体でのリスク回避につなげる取り組みです

【大塚製薬の熱中症対策啓発活動】 大塚製薬は1992年より、科学的根拠に基づく水分・電解質補給の重要性を訴え、啓発活動を開始しました。スポーツ現場や教育機関などを中心に、30年以上にわたり多様な場面で熱中症対策を啓発しています。「熱中症対策アンバサダー講座」では、正しい知識を持ち周囲に広める人材の育成にも注力しています。誰もが命を守る行動を取れる社会の実現を目指し、今なお進化を続けています



2. APUの概要と今後の展望

多文化共生型キャンパス

世界 **110** カ国・地域からの
国際学生3,160名と国内学生3,381名
合計6,541名が学ぶ国際大学
(2025年5月1日付/学部生、大学院生、交換留学生などの非正規生含む)

開学以来、学生が在籍
したことがある国・地域

170

学生数のうち
外国人留学生比率 **48.3%**

外国人留学生のうち
正規生比率 **95.2%**

教員総数 **219** 名

外国籍教員総数 **102** 名

外国籍教員比率 **46.6%**

※教員総数は専任の教授、准教授、助教、講師の合計
(2025年5月1日付)



特徴ある3学部の学び

APS

アジア太平洋学部

入学定員 510名/年

文化・社会・メディア

グローバル経済

国際関係

ST

サステナビリティ観光学部

入学定員 350名/年

環境学

資源マネジメント

国際開発

地域づくり

社会企業

観光学

データサイエンスと情報システム

ホスピタリティ産業

観光産業

国際経営学部

入学定員 610名/年

経営戦略・リーダーシップ

マーケティング

会計・ファイナンス

アントレプレナーシップ・
オペレーションマインド

APM

学部

学部

GSA

アジア太平洋研究科 博士前期課程

入学定員 60名/年

アジア太平洋研究科 博士後期課程

入学定員 10名/年

国際学生が約半数

英語・日本語を徹底的に
鍛える言語教育

約半数を占める外国籍教員から
世界の「いま」を学ぶ

学部は日英二言語、
大学院は英語のみで開講

経営管理研究科（修士課程）

入学定員 40名/年

GSM

大学院

大学院

APU独自の教育スタイル

大学生活を**成功**に導く、
多文化協働クラス

学部に関係なく全員が初年次に受講する「[多文化協働ワークショップ](#)」では、大学生活を成功させるためのスキルが学べます。多国籍が混じり合う少人数グループに分かれ、半年間かけて共に課題に取り組むなかで、APUでの学生生活に必要な言語力、異文化理解力、コミュニケーション力の修得を目指します。

ディスカッションと
実践を重視した講義内容

教員・学生同士でのディスカッションを授業内で頻繁に行うことで、論理的思考を鍛錬するとともに、相手の意見に耳を傾けつつ発信するコミュニケーション力を磨きます。学生には国内外の現場でリサーチを行うフィールドスタディを推奨しており、実社会で活かせる問題解決能力の修得を促しています。

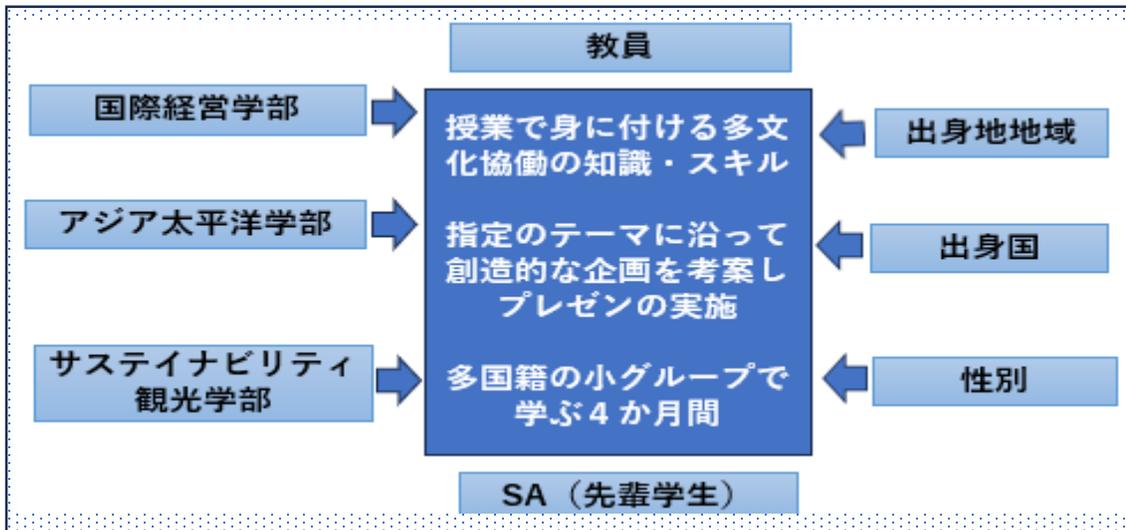
世界を舞台にした、
学生同士の**学び合い**

APUには、より良い社会の実現に貢献したいと志す学生が世界中から集まっています。多くの学生たちは、高度な知識を持った選りすぐりの教員たちの指導のもと、チームで切磋琢磨し、国内外の様々な分野における大会で優秀な成績を残しています。世界を舞台に活躍する仲間たちとともに、国際水準で戦えるプレゼンテーション能力、クリティカルな思考と交渉力を養うことができます。

APU独自の教育スタイル『多文化協働ワークショップ』 (MCW:Multi Cultural Workshop)

全学生約6000人の半分が、100以上の国・地域から集う留学生

APUでは授業内外において、多国籍な学生同士の協働作業を日常的に行います。この環境を存分に活かして4年間学ぶには、コミュニケーションや多文化協働のスキルの鍛錬が必須です。そのために1回生が必ず受ける授業が、多文化協働ワークショップ。大学生活を成功させるためのスキルを獲得できる仕掛けとして開講しています。



■ 多文化協働ワークショップにより高められる能力

1, グローバル社会に対応できるマインドセット

- 異なる文化に属する人々に対して持つステレオタイプ、偏見、思い込みに気づくことができる。
- 自文化を中心としたものの見方から抜け出し、文化的背景の異なる人々の視点から物事を見、感じることができる。

2, 多文化協働の基本スキル

- グループの一員として自分からできることを探して行い、グループ活動に積極的に貢献することができる。
- グループメンバーが自分は尊重されていると感じられるように、メンバーの個性とグループへの所属感を大事にした態度や声掛けができる。

3, 高いコミュニケーションスキル

- コミュニケーションのとり方がいかに異なりうるかを理解し、状況に応じて異なるコミュニケーションスタイルを実践できる。
- 文化的背景の異なる人々の文化や生き立ちに好奇心を持ち、心を開くことができる。



APU独自の教育スタイル『多彩なアクティブ・ラーニング』

国内・外、短期・長期と多様なプログラム

日本人学生は卒業までに一度は海外での学びを体験することを目指す

DIFFERENT CULTURE

異文化を体験する

FIRST

1回生向け異文化体験学習プログラム

- ▶ 言葉の通じない国・地域で調査を行う新入生対象のプログラム



SPECIALTY

専門を学ぶ

交換留学・共同学位

- ▶ 交換留学では、現地の学生とともに専門の科目を履修



LANGUAGE

言語運用能力を高める

言語イマージョン

海外言語集中研修

- ▶ 海外の大学のキャンパスや大学付属の語学学校などで集中的に学習



専門分野調査研究型プログラム

フィールド・スタディ

- ▶ 専門分野の理解を深めるために、現地で調査と研究を行う



APU独自の国際教育寮『APハウス1・2・5(キャンパス内)』

違いを知る。認める。そのうえで課題について
とことん話し合い、
「解決策」を導き出す力を育む



国際学生と国内学生 1,326名がともに暮らす

寮生の国際学生比率 **425%** 2025年5月1日現在

シングルタイプ シェアタイプ ユニバーサルタイプ 収容可能

1,186室 + **378**室 + **7**室 = **1,571**室

VALUES

互いの生活習慣や
価値観の違いを知る

- ▶ シェアタイプは日本人学生と国際学生が隣り合わせ
- ▶ 共同キッチンで互いの国・地域の食文化に触れる



NOURISH

学び合い、
助け合う心を養う

- ▶ 日常生活の空間で他言語・多言語学習
- ▶ 授業やレポートの教え合い・学び合い
- ▶ 毎月フロアミーティングを実施



RULE

ルールを作り、
学生スタッフが運営

- ▶ RA (レジデント・アシスタント) が寮生をサポート
- ▶ 各種イベントの企画・運営
- ▶ フロアを巡回、ゴミ分別チェック



EVENT

イベントを通じて交流を深める

- ▶ フロアや棟ごとにパーティーやイベントを開催
- ▶ 各国の文化を紹介する企画 ▶ 世界祭(寮祭)の実施
- ▶ 広島・沖縄などを目的地にし、「平和」がテーマのツアーを開催



※ APハウス3・4 (APU Plaza Oita) はオフキャンパスにあります。

2024年度進路状況

		国内学生	国際学生	合計	アジア太平洋学部	国際経営学部	大学院	合計
卒業生・修了者 ¹		638	512	1,150	589	561	113	1,263
卒業生進路内訳	就職決定報告者	503	259	762	388	374	72	834
	進学者 ²	23	83	106	51	55	8	114
	その他 ³	87	170	282	150	132	31	313

例) 1. 卒業生・修了者…2023年9月、2024年3月学部卒業生・大学院修了者（国際学生含む） / 2. 進学者…大学院・大学進学者 / 3. その他…帰国、進学・資格試験の受験準備、就職活動継続、留学、専門学校、家事従事など

2024年度

就職決定率

就職決定率 = 就職決定報告者 /
就職希望者 (2025年3月31日現在)

92.8%

国内学生
就職決定率

95.1

%

国際学生
就職決定率

88.7

%

地域別・業種別就職者割合

国を越える

コミュニケーション力・積極性・協働性に高評価

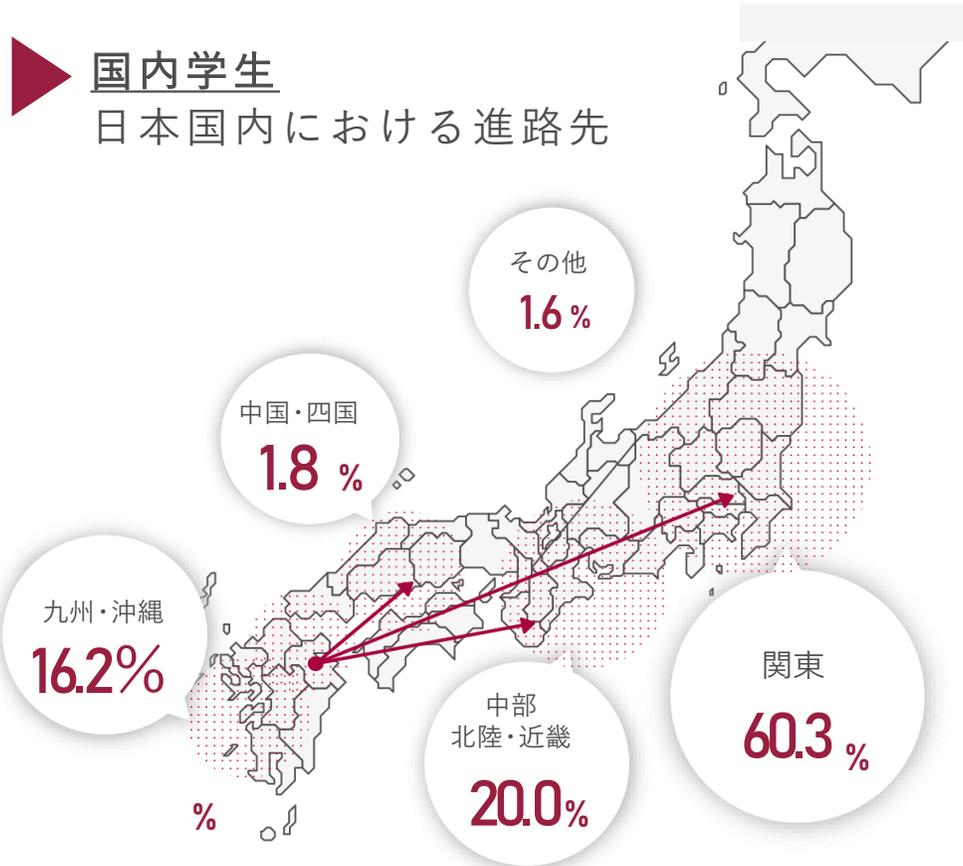
国内学生 ▶

グローバル企業を通じて全世界へ

国際学生 ▶

日本企業 or 母国へ

▶ 国内学生
日本国内における進路先



▶ 業種別就職先企業（日本国内）

【国内・国際】

国内学生	100.0%
サービス	27.7%
メーカー	22.5%
IT・情報処理	14.3%
商社	8.8%
流通	6.6%
運輸・倉庫	6.4%
金融	5.9%
情報（通信・マスコミ）	3.9%
官公庁・団体	2.9%
教育機関	0.6%
医療・福祉施設	0.2%
専門・技術サービス業	0.2%

国際学生	100.0%
サービス	39.0%
メーカー	16.0%
IT・情報処理	14.1%
商社	8.0%
金融	7.5%
流通	6.1%
運輸・倉庫	3.8%
官公庁・団体	1.9%
医療・福祉施設	0.9%
教育機関	0.9%
情報（通信・マスコミ）	0.9%
エネルギー	0.5%
専門・技術サービス業	0.5%

APU2030ビジョンとチャレンジ・デザイン

■ 3つの重点目標（2021年～2030年）



● 多文化共生キャンパスの実現

APUは、比類ない多国籍・多文化環境を活かして、世界市民として成長するための学習や活動の機会及び生活環境を提供し、世界に誇るグローバル・ラーニング・コミュニティを創成します。



● グローバル・ラーニングの価値を創造する

APUは、教育・研究の質を絶え間なく向上させ、世界で通用する新たなグローバル・ラーニングの価値を創造し、世界に通用する研究を発信します。



● 地域の社会課題の解決に取り組む

APUは、世界中の卒業生、世界各地の地域社会、各種ステークホルダーとのつながりを深化させ、教育活動や大学運営で協働します。

APUの新たな3つの挑戦

民族、宗教、文化、利害
などの分断と対立

地球規模での人類の課題

デジタル技術の進展と
生活・社会への影響

経済格差の拡大
社会的不平等

Leap Beyond Global, Leap to Diversity & Inclusion

コンフリクト、混沌の克服

個の成果を社会に実装

多様性に
富んだ環境

『混ぜる』

多文化、多国籍に加え、あらゆる属性の多様性が集まりともに学ぶ
大学へ

ライフロング・ラーナー

包摂性を
高める

『受け入れる』

自己理解と他社理解による、多様な個性・特性を受け入れられるコミュニティを創成

ダイバーシティ&インクルージョン
(D&I) 実践・D&I推進人材育成

社会変革と
価値創造

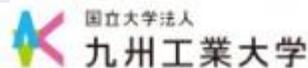
『解を出す』

多様な人材・視点が社会課題・地域課題の解決に貢献しイノベーション創出とウェルビーイングを実現

大学の役割の転換
イノベーター/ファシリテーター

「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」に採択

「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」に採択 ～九州から世界へ、新たな価値創造の挑戦～



- ・国際教育・インクルーシブ教育
- ・ダイバーシティ環境の提供
- ・ビジネス開発の実践

- ・高度科学技術教育
- ・実験実習環境の提供
- ・起業家育成・ベンチャー支援

【インパクト創出を目指す6つのポイント】

本プログラムを通じて以下の6つの成果を目指します。

- 異なる文化と協働し、社会を変革する人材を輩出
- 地域における課題解決エコシステムの創出
- 高度専門人材の地域流入・地域定着
- 大学を結節点とした海外・国内各地域の橋渡し
- 初等・中等段階からの地域社会グローバル化
- 多様で包摂的な協働・共創の実践の場を提供

《採択プログラムの概要》

【テーマ】

Leap Beyond Global: 組織・地域・分野を超えたグローバルな価値創出

【目指す方向性】

- ① 多様性の再定義 国籍やエスニシティに加え、年齢、ジェンダー、学修分野、多様な特性など多次元の多様性を高め、地域社会や大学の枠を超えた包括的な協働環境を構築します。
- ② 「混ぜる」から「解を出す」 多文化共修を基盤とし、リアルな社会課題に挑み解決策を提示。さらにテクノロジーを活用した社会実装を推進し、社会にインパクトを与えられる人材の着実な育成を目指します。
- ③ 理論と実践の融合 両大学の学生が多様なステークホルダーと連携し、地域や大学と関係する世界の「地域」をフィールドとした学びを推進。2つのキャンパスを課題解決と実装の場として活用します

「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」に採択

「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」に採択 ～九州から世界へ、新たな価値創造の挑戦～

【共同取り組みの主な内容】

1. 多文化共と多分野融合の推進、多文化環境の創造 APUと九州工業大学が共同で、多文化環境での学びと文系・理系の垣根を超えた融合教育を展開します。両大学が連携し、以下2つの内容で、22科目以上の多文化共修科目を開発します。

- 多文化共修科目の共同実施 それぞれの大学で、地域社会における問題の発見や課題抽出、そこからの解決策の提示と実装までの過程を、正課・正課外の学びの中に組み込む取り組みを行います。同時に2大学のそれぞれの強みや専門分野を提供し合い、正課・正課外の科目の共同実施を行います。九州工業大学が提供する理工系科目とAPUの国際的視点を活用した授業を共同開発します。
- 国際教育寮「APハウス」の活用 APUの国際教育寮を拠点として、両大学の学生が地域課題に取り組む共創型の仕組みを構築します。

2. 九州をフィールドとした社会課題解決型プロジェクト APUと九州工業大学が共同で、九州地方の課題解決を通じて社会的価値を創造します。

- 課題解決プラットフォーム「Localink」の運営 両大学が協力して、地域企業や自治体と連携し、学生と地域の課題をマッチングする仕組みを構築します。九州の地域社会が直面する課題をグローバルな視点で解決します。
- 地域連携ワークショップ 別府市や飯塚市を中心に、産学官連携プロジェクトを共同で実施します。地域企業の課題に対し、APUと九州工業大学の学生がそれぞれの専門性を活かして解決策を提案します。

3. STEAM教育と社会実装の強化 APUと国際教育と九州工業大学の科学技術教育を融合し、次世代のグローバルリーダーを育成します。

- AI・データサイエンスを活用した教育プログラム 両大学がAIやデータサイエンスを活用した授業を共同で開発し、理系分野への関心を持つ学生の育成を目指します。
- テクノロジーを活用した社会課題解決プロジェクト 最先端技術を活用したプロジェクトを共同で推進し、学生が学びを社会に実装する機会を提供します。

4. グローバルな価値創造ネットワークの形成 APUと九州工業大学が連携し、九州を起点に国内外で課題解決を進める仕組みを構築します。

- グローバルリーダーシップ科目 両大学の学生を対象に、システム思考やソーシャルインパクトを中心に据えたリーダーシップ教育を推進します。
- 海外ケーススタディプログラム 世界各地の課題を題材とした共同プログラムを実施し、学生が国際的なビジネスや社会問題に挑戦します

A group of approximately 20 people, including men and women, are standing in a line on a paved area in front of a modern building with large glass windows. They are dressed in formal attire, including suits, dresses, and traditional Japanese clothing like a kimono. The scene is brightly lit, suggesting an outdoor daytime setting. The text is overlaid on the image in a semi-transparent black box.

本日はご参加いただきありがとうございました。

引き続きのご支援よろしくお願い申し上げます